

●選抜Ⅱに向けた準備

荷物を段階的に持ち帰る。

3月2日(金)までにできるだけ持ち帰っておく。

3月5日(月)の日程

考査2日目+検査場整備

8:30~	SHR ★靴を袋に入れ教室に持って上がっておく
8:50~11:05	第4回考査(1・2限)
11:20~11:35	SHR
11:35~	大掃除 ★荷物は全て持ち帰る ロッカー空 扉は開けておく 靴箱清掃 各クラス3~5名 雑巾持参
11:35~	脱靴室 清掃
12:50	生徒完全下校 脱靴室前 通行禁止 靴を持って移動

●課題研究全体発表会(2月22日)を終えて 振り返り一部紹介



- ・班内での協力がなければ素晴らしい作品を作り上げることはできないと感じた。
- ・講評の中で、「著者と対等になって対話しながら本を読む」ことを習慣化させることが今後の学びにつながることがわかった。
- ・クラス内での発表を聞いていたが、その時よりさらにグレードアップしているのがわかりやすいと思った。
- ・まさか自分たちの班がアカシヤで発表するとは思ってなかったので、今日は選ばれた自信と嬉しさと、そして緊張感でいっぱいでした。周りから見てどうだったかはわかりませんが、ポスター発表の時より内容も深められました。今日で一応終わりですが、これまでこの班でやってきたことを大学や社会に出たときに応用していきたいです。
- ・講評の中で、大学における学び、学問を「身を削る」と曾余田先生が表現されていて印象に残った。「問い」をたてて、自分の中で「対話」を繰り返していくのが学問なら、今までに自分が経験したことを引き出し比較するわけだから、たしかに「身を削る」と言える。場合によっては文字通り「全身全霊」をかけることもあるだろう。いままでの勉強と比べ、学問ははるかに消耗が激しいものだとわかった。今回の課題研究は、「消耗」という点で、大学での学びに通じると思う。発表内容を考えるにあたって、うまく考えがまとまらずパンクしそうなのが何度かあった。また、修学旅行で得たことをまとめ、先生(集団)に発表し、返ってきた反応をもとに書き直すという今回の手順は、大学での学びの構造と似ている。課題研究は、「プレ学問」と言えると思った。内容・質はまだまだ甘いかもしれないが、これまでの過程を大事に学んでいきたいと思う。



- ・自分たちの研究発表は、もっと**主体的**にするべきだったと思った。自分たちがタイトルにあげたものは、自分たちが「知らなければならないこと」ではあったものの、「知りたいこと」ではなかったために、やらされている感じがでていたのだろうと思った。先生のお話にあるように「学び」は「遊び」であり、自分のやりたいことができる大学に入るのがまた少し楽しみに思えた。
- ・発表はすごく充実した1時間になった。それぞれが伝えたいことを丁寧にまとめて、言葉とパワーポイントで、提案を行っていて面白かった。**実験をふまえた説明や写真**が使われていてよかった。
- ・**評価する基準**を設けることはとても難しいことだと思います。創作されたものに対する視点はひとによって異なるし、誰の目線が正しいかもないからです。もっと多くの講評を多くの角度から伺いたかったです。
- ・各班、さまざまな視点から「持続可能な社会をつくるため」の**考察**をしていて面白かったです。でも、先生がおっしゃった「**自分の頭や身体で考えたものは少なかった**」と思いました。私もクラスで発表した時、ありきたりな考察しかできなかったのので、人のことをあれこれいう資格はないけれど、これから先、もっと「自分の頭や体で考え」発言しようと思います。**「自己内対話」**をすることで、**学びの質**を上げます。
- ・自然、平和、教育など**さまざまな視点**から私たちができることや持続可能な社会について考えることができるとわかりました。課題研究の取り組みを通して、改めて、**日本が直面する問題**を考え、**身近なことと関連づける**べきだと学びました。
- ・ドイツに元々興味があるので、どういう発表になるのかとても楽しみにしていた。難民についてはとても興味深い発表だった。**日常ではあまり考えない問題**だけど、今日のグローバルな世界では**他人事ではない問題**であり、考えていかなければならない問題だと思った。
- ・この発表やそれまでの取り組みを通じて、**修学旅行を単に「楽しい」で終わらせない活動**ができたと思う。各自で一生懸命データを集めて話し合いながら、みんなで作り上げるものはとてもよい思い出になった。同じ景色を見ても、それをどういう形で自分の中にインプットできるか、アウトプットできるかは人によってさまざまで、**だからこそおもしろいと感じた**。大学でも、**自分とは違う考えをもつ人との交流**を積極的にして、自分の視野を広げていきたい。

★示唆に富む、次につながる「気づき」が多く書かれていました。(写真は全て9組宮崎君の提供です)



- 発表グループには、後日、個別に文書で、曾余田先生から講評を頂けるそうです。
- 発表者の皆さん、お疲れ様でした。
- 開会、閉会の挨拶や司会進行を務めた皆さん、放送部、演劇部の皆さんご協力ありがとうございました。